

SPELT JOURNAL 投稿規定

1. 執筆者は投稿の申し込み時点で全員が会員であることとする。
2. 投稿論文は、未発表のものに限る。ただし、口頭発表したものでも、その旨を明記してあれば、審査の対象とする。
3. 投稿分野は、学術的な実験・調査および理論的考察等をまとめた「研究論文」と、教育実践にもとづく知見を考察する「実践論文」との2部に分ける。
4. 原稿は、原則としてMSワードを用い、A4縦長の用紙に以下の書式で作成すること。規定に大きく反しているものは受理しない（ニューズレターへの投稿を依頼する場合あり）。
 - (ア) 上下左右に3cmずつ余白を設ける。
 - (イ) 横書きで、文字の大きさは、和文・英文とも12ポイントで作成する。
 - (ウ) 和文の場合37字40行でフォントは明朝体、英文の場合74字40行で、フォントはCenturyを使用する。日本語に英数字が混じる場合、全て半角を使用する。
 - (エ) 最初の頁に、3行空けて論文タイトル（16ポイント、ボールドは不要）、1行空けて氏名、改行して括弧書きで所属（共著の場合は改行せずにまとめて可）、さらに1行空けてAbstractと書き、次の行から200語程度の英文Abstractを一つの段落にまとめて置く。論文タイトル、氏名と所属、Abstractの語句はセンタリングを施すこと。Abstractの後、1行空けて本文に入る。
 - (オ) 英文タイトルは、語頭を大文字、他は小文字で表記する。英文著者名はHanako HOKKAIの要領で表記すること。
 - (カ) 各章・節のタイトルには番号をふる。章タイトルはセンタリングし、前後1行ずつ空ける。節タイトルは左寄せし、前は一行空け、後は一行空けることはしない。番号は、ローマ数字ではなく、アラビア数字を用いる。章タイトルの前に付す番号の直後にはピリオドをふる（例：3.調査の方法）。また、章と節を示す番号の間には、ハイフンの代わりにピリオドを用いる。例：2.1.3
 - (キ) ページ番号は不要。ただし、査読用に印刷したものには、用紙右上に鉛筆で記入する。
 - (ク) Abstract、本文、注、文献リスト、図、表等の資料すべてを含め、研究論文、実践論文とも10枚以上20枚以内とする。

(ケ) 図、表には一連の番号をつける。脚注はつけず、全ての注は本文と文献リストの間にまとめておく。また、表の前後は一行ずつ空ける。

(コ) 英文原稿、英文 Abstract は、必ずネイティブチェックを受けたものを提出する。

(サ) 文献リストは、本文中に言及あるもののみを「引用文献」（日本語論文）あるいは References（英語論文）と左寄せして掲げた後に続けて書く。配列は、英語文献を先に著者名のアルファベット順に並べ、次に日本語文献を「あいうえお順」で続ける。論文中の引用の方法や引用文献の書式、図や表の作成方法については、American Psychological Association 発行の APA Publication Manual (7th Ed.) を参考にすること。参考までに、文献リストの書式例を以下に掲げる。

①日本語文献の発行年のあとのピリオドは不要。

②紀要等の号数を表示する際、「第～号」のようにする必要はなく、数字だけでよい。

③インターネット上の資料を挙げる場合には、[URL]のみでよく、閲覧日又は取得日を記載する必要はない。

Baker, S. C. & MacIntyre, P. D. (2000). The role of gender and immersion in communication and second language orientations. *Language Learning*, 50, 311-341.

伊田勝憲 (2002) 「学習動機づけの統合的理解に向けて」. 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』, 49, 65-76. Chamot, A. U. (2001). The role of learning strategies in second language acquisition. In M. P. Breen (Ed.), *Learner contributions to language learning* (pp.25-43). Pearson Education Limited.

池田 央 (1989) 「階層クラスター分析」. 池田 央 (編) 『統計ガイドブック』 (pp.199-200). 新曜社.

文部科学省(2017) 「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告基礎資料（平成 28 年度英語力調査結果（中学 3 年生）の速報）」 文部科学省ホームページ（http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/03/30/1383783_1.pdf）

(シ) 本文中の引用先の明示については、日本語の場合は（池田、2018）のように表記し、英文の場合は (Chamot, 2018) とする。

5. 論文本体の構成は以下を基本とする。これ以外の構成の論文投稿を妨げるものではないが、その構成が妥当か否かの判断は査読者の判断に委ねられる。

(ア) 研究論文：調査・実験等によるデータ収集を伴う論文。

- ①「はじめに」または「序論」として、研究の目的及び意義を述べる。
- ②「研究の背景」や「先行研究のまとめ」等として、当該分野におけるこれまでの関連する研究を概観し、研究課題の新規性・独創性を述べる。（①と②は1つの章にまとめてもよい。）
- ③「調査の方法」や「研究の方法」等として、研究課題・仮説（②の最後に述べるか、独立した章を設けてもよい）、調査参加者・実験被験者、データ収集に用いた試験・質問紙等の道具、調査・実験の手続き、教育介入の内容と手順、分析の方法等を述べる。
- ④「結果と考察」や「結果と分析」等として、得られたデータのまとめ、その解釈、先行研究で得られた知見との比較等を述べる。「結果」と「考察／分析」の2章に分けてもよい。
- ⑤「おわりに」、「むすび」、「結論」等として、新しい知見の概要、教育への示唆、結果解釈上の留意点、今後の研究課題を述べる。

（イ）研究論文：理論的考察を行う研究論文。

（ア）の論文構成のうち、③と④の代わりに、内容に応じて適宜章のタイトルを設け、新しい概念や研究の方向・方法の提示、複数の理論・方法の比較、入手可能な知見による妥当性の考察、当該研究分野に与える影響の説明等を議論する論文。

（ウ）実践論文：教育実践にもとづく知見を考察する論文。

- ①「はじめに」または「序論」として、取組の動機・目的、普遍的問題としての一般化の可能性等を述べる。
- ②「問題の所在」や「解決すべき問題点」等として、取り組んだ教育実践上の問題点を、深刻さ、解決すべき理由、原因の考察等を述べる。ただし、①と②は1つの章にまとめてもよい。
- ③「実践の内容」や「取り組み」等として、授業計画、教材、教授の手順、評価方法等を具体的に示しながら、実践の内容を説明する。
- ④「効果」や「結果と解釈」等として、観察、評価資料、質問紙・面接・授業評価等の学習者からのフィードバック、第三者の評価等をもとに問題点がどのように、どの程度解決したか、新たな問題は生じなかったか、考えられる理由は何かなどについて説明する。
- ⑤「おわりに」、「むすび」、「結論」等として、報告した教育実践の概要と今後の取組の展望を述べる。

6. 原稿を以上の要領で作成し、MSワードのファイル形式で保存したものを下記電子メールアドレスまで、11月30日必着で送付すること。(MSワードが使用できない場合は、電子メールにて個別に相談に応ずる。) speltjournal@spelt.main.jp 竹内典彦 (SPELT JOURNAL 編集委員長) 北海道情報大学経営情報学部先端経営学科 電話(代表): 011-385-4411 (ア)投稿予定者は、9月30日必着で、メールによる投稿申込をしなければならない。メールの件名には「SPELT JOURNAL 第10号投稿申込」と書き、メール本文には、執筆者(共同執筆者名も含む)、所属、連絡先住所と、「研究論文」・「実践論文」の別、及び200~300字の概要、及び日本語論文または英語論文の別を明記すること。(イ)完成原稿を提出する際は、メールの件名には「SPELT JOURNAL 原稿」と書き、メール本文には、執筆者、所属、連絡先住所と、「研究論文」か「実践論文」かの別を明記すること。氏名・所属を伏せた原稿を上記編集委員長が作成し、査読者に送付する。

7. 原稿の採否は、査読後決定する。原稿が採用され、掲載される場合には、請求に応じて掲載費(1編5,000円)を支払うこと。

8. 審査後、修正を指示した上で採用する場合、指定された期日まで(通常1週間後)に原稿を再提出すること。応募段階で届け出た執筆者を採用通知後に変更することは認めないので注意すること。

9. 抜刷りは、第2号以降の電子ジャーナル化に伴い、現在発行していない。

(2020年9月4日改訂)